

コンテンツ構築

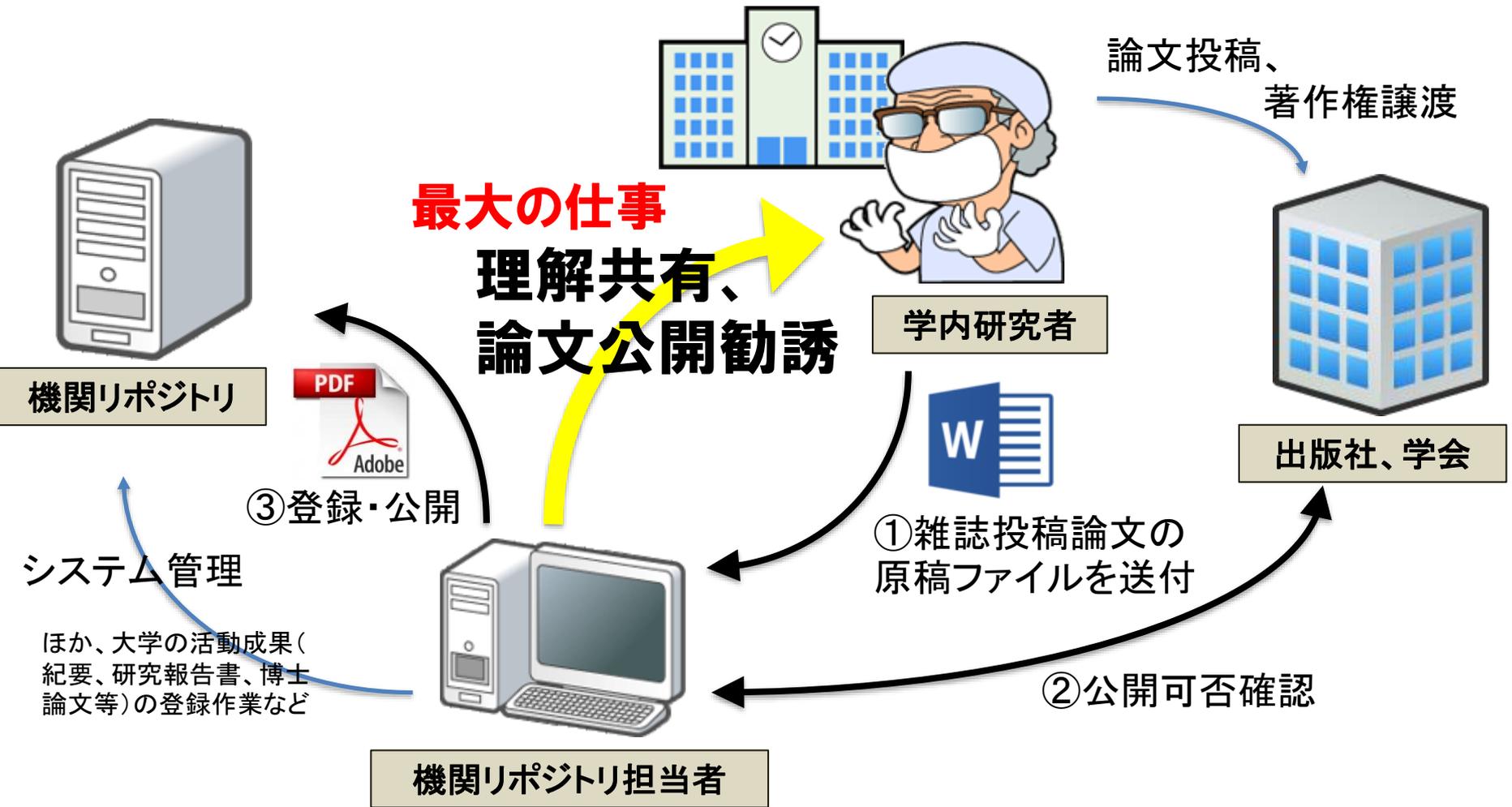


2018年度 10月24日改訂版

機関リポジトリ新任担当者研修テキスト

JPCOAR オープンアクセスリポジトリ推進協会
研修作業部会

機関リポジトリ業務とは



コンテンツ構築

構築には、熱意も大切

- リポジトリ担当者がどれだけ動くか。
- 自機関のリポジトリは、現状はどこまでできているか、さらに次の段階に何を計画できるのか。

目標 ヒントをたくさん持ち帰る

ペアワーク1

隣同士で自機関リポジトリの現在のコンテンツの内容および収集方法を説明する。

未構築館はまず公開しようとしているコンテンツは何か、現在の計画を説明する。

Time 2分

本講の内容

- [ペアワーク1]
- 機関リポジトリのコンテンツとは
- 各コンテンツの考えどころ
- コンテンツ収集：研究者への広報
- [事例紹介]
- [ペアワーク2]
- 模擬説明会

機関リポジトリのコンテンツとは

機関リポジトリのコンテンツとは

- 所属研究者の研究成果と機関の活動成果
 - 紀要、学位論文、学内プロジェクトの成果文書(報告書等)
 - 学術雑誌掲載論文、学会発表資料、記事、コラム、サイエンスデータ、ビデオ、音声、教材 etc.
- 何を収集するか・しないか？
 - 運用方針や規程等での定義付け
 - 機関全体での戦略的なコンテンツ収集に
 - 運用方針一覧：
<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?%E9%81%8B%E7%94%A8%E6%8C%87%E9%87%9D%E4%B8%80%E8%A6%A7> (参照2018-05-12)

機関オープンアクセス方針(再掲)

教員の研究成果を機関リポジトリで公開することを規定(「原則義務化」「強く推奨」等)したオープンアクセスポリシーを策定し、公表(京都大学、筑波大学、九州大学など)

(参考)

オープンアクセス方針策定ガイド

<http://id.nii.ac.jp/1458/00000021/> (参照2018-04-25)

オープンアクセス方針・実施要領 リンク集

https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=53 (参照2018-04-25)

機関オープンアクセス方針の策定

☆オープンアクセス方針策定の目的

- OAのさらなる推進を目指し、OAに関する機関としての方針を内外へ示す

(趣旨)

1. 神戸大学(以下「本学」という。)は、世界最高水準の教育研究拠点の構築と世界的な存在感の向上を実現し、現代及び未来社会の課題の解決と学術研究の発展に寄与するため、神戸大学研究憲章に掲げられた目標の通り、本学の卓越した研究成果を広く世界に向けて発信する。このため、本学に在籍する役員及び教員(以下「教員」という。)によって得られた研究成果のオープンアクセスに関する方針を以下のように定める。

「神戸大学オープンアクセス方針」より抜粋

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kernel/doc/oapolicy.pdf> (参照2018-05-12)

機関リポジトリのコンテンツとは(まとめ)

各機関の研究教育情報発信の方針

運用方針

OA方針

規程・内規・要項

各機関のコンテンツの収集・構築へ

コンテンツの収録方針は、機関によって特色があってよい必要に応じて、改正等も視野に入れてみよう

各コンテンツの考えどころ

コンテンツの2タイプ

	学内刊行物/学内生産	学外の刊行物
具体的な例	研究紀要、博士論文、 科研費報告書	学術雑誌論文、学会発表資料など
学内連携手続きを構築 することで捕捉可能か	◎	△
学内連携先	刊行物発行部署、教務系	教務系

学内刊行物：紀要類

- 主な調整先：紀要編集委員会
 - 電子公開の主体はあくまで紀要発行母体
 - 「図書館に持ってかれる」印象を与えないこと！
- 新刊分： **ボーンデジタルで！**
 - 編集・査読プロセスそのものを電子化
 - 印刷業者からPDF納品（改めて紙からスキャンすることがないよう）

学内刊行物：紀要類

新刊号から電子化する場合

- 電子化および公開の許諾
 - 紀要編集委員会に投稿規程の改訂を依頼
 - 電子化(複製権)と公開(公衆送信権)を許諾・・・委譲・・・
 - 投稿規程改訂により、スムーズに「電子化と公開」が可能に
- 印刷業者からのPDF納品
 - 紀要編集委員会に印刷仕様書の改訂を依頼
 - PDFファイルは論文単位で・・・透明テキスト付で・・・
 - 論文へのアクセスは増やし、作業の手間は増やさないように

学内刊行物：紀要類

- 紀要の公開をルーチン化するために
 - 新刊PDFのスムーズな入手のポイント
 - 担当窓口の設定
 - 受け渡しの方法と時期を取り決め
 - 入力データのチェック体制
 - 一般公開のタイミングは？
 - 利用統計等のフィードバック
 - 把握しておく事項
 - 紀要の発行スケジュール
 - 公開にあたっての著作権処理(投稿規程)等

学内刊行物：紀要類

バックナンバーを登録・公開する場合

- 権利処理をどうするか 発行母体と調整
 - 投稿規程を過去に遡って適用
 - HPや紀要、メール等でお知らせ(オプトアウト)
 - 著者ひとりひとりに許諾(オプトイン)
- 誰がスキャンするか
 - 自炊？ or 委託？
 - 自炊
 - ハード機器(ネットワークスキャナなど)が必要
 - 業者委託
 - スキャンのみ5円弱/p(3万p),メタデータ100円/件
 - スキャンOCRつき15円/p(1万5千P)

紀要等のジャーナルページ(広島大)

The screenshot shows the homepage of the Hiroshima University Japanese Language History Research Journal. The header includes the university name, a language selector (English), and a search bar. The main content area features a large blue banner with the journal's title and a detailed introductory paragraph. To the right of the banner, the ISSN and publisher information are displayed. Below the banner, there are navigation links for '雑誌トップ' (Journal Top), '総目次' (Table of Contents), and '編集委員' (Editorial Board). The main content area is divided into sections for '全体' (Overall) and individual articles. The first article listed is '広島大学 日本語史研究論集 第三号' (Hiroshima University Japanese Language History Research Journal, Volume 3), published by the Hiroshima University Japanese Language History Research Association. Below this, two specific articles are highlighted: '中世末期・江戸時代における「すわる」の意味素描' (Sketch of the meaning of 'suwaru' in the late medieval/early Edo period) by Mitsuhiko Inoue, and '金沢文庫本群書治要尚書に於ける訓詁の文体差' (Stylistic differences in the explanation of words in the Kanazawa Bunko Benkyo Shoyo Shoshu) by Junji Chen.

広島大学 学術情報リポトリ

English 検索

広島大学日本語史研究論集

2015年9月に創刊された『広島大学日本語史研究論集』は、同誌編集委員会の直轄付きの同人学術誌である。発行主体の広島大学日本語史研究会は、広島大学大学院文学研究科の日本語史(国語史)の卒業生、大学院在学学生を中心組織され、事務局は、広島大学大学院文学研究科日本文学研究室松本研究室に置かれている。『広島大学日本語史研究論集』は、日本語史研究に関わる学術論文、日本語史料の公開、古単語のデータの公表を目的としたものである。雑誌の公開は、紙媒体を廃して、広島大学図書館の学術情報リポトリに電子ファイル(PDFファイル)を上げたオンラインジャーナルで、ネットを通じて全世界に発信している。史料・データの公開を目標の一つに掲げて検索の便を考慮し、オンライン上での検索、また、掲載PDFファイルのダウンロードのPC上での検索に対応した形を取ることを目指した学術誌である。

ISSN :2189-2849
発行元:広島大学日本語史研究会
(広島大学文学研究科)
広島大学日本語史研究論集
編集委員会

雑誌トップ

- 3号 (2017-03-31)
- 2号 (2016-03-31)
- 1号 (2015-03-31)

>> 全体

総目次

編集委員

広島大学 日本語史研究論集 第三号
広島大学日本語史研究会(広島大学文学研究科) PP.

>>

中世末期・江戸時代における「すわる」の意味素描
岡野 幸夫 PP. 1 - 10

金沢文庫本群書治要尚書に於ける訓詁の文体差
陳 翰柯 PP. 11 - 26

http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/journal/ej_HU_nihongoshi (参照2018-05-12)

紀要等のジャーナルページ(甲南大)

The screenshot displays the Konan University Repository interface. At the top left is the university logo and the text '甲南大学機関リポジトリ Konan University Repository'. Below this is a descriptive paragraph about the repository's mission. A search bar is present with a '検索' (Search) button and radio buttons for '全文検索' (Full-text search) and 'キーワード検索' (Keyword search). The main content area is titled 'インデックスリスト 紀要 ▶ 甲南経済学論集'. It features a thumbnail of the journal cover for '甲南経済学論集' (Konan Economic Papers) and provides the following details: 別タイトル: Konan Economic Papers, 出版者: 甲南大学経済学会, 言語: jpn, ISSN/ISBN: 0452-4187, eISSN/eISBN: 0452-4187, and 甲南大学経済学会. A URL is provided: https://konan-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=197. On the left, a sidebar shows a 'Language' dropdown set to '日本語' and an 'インデックスツリー' (Index Tree) with '甲南経済学論集' selected. At the bottom of the main content, a link for '第58巻 (2017) [25件]' is visible.

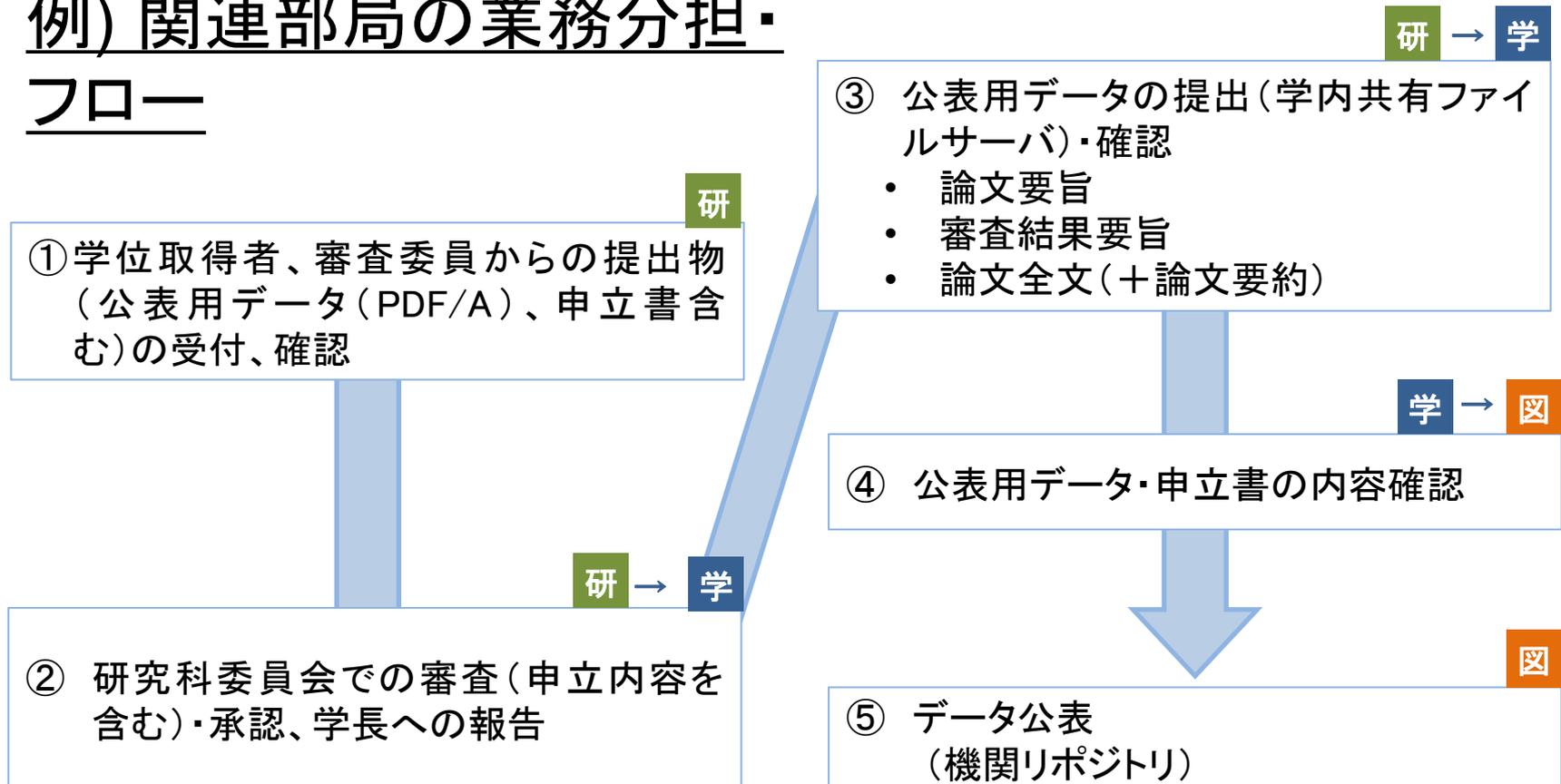
https://konan-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=197(参照2018-05-12)

学内生産：学位論文

- 主な調整先：教務や学位審査委員会
 - 博士論文・修士論文・卒業論文
 - 誰の？ / どこでとった？
 - 特許取得・雑誌投稿・出版等との兼ね合い
 - 抜刷で学位申請するケース
- 新規授与分
 - 博士論文は**義務**化（本文は著者に公開義務）
 - 事例：①教務に提出・図書館は登録公開するだけ
②図書館で著作権調査を請け負う

学内生産：学位論文

例) 関連部局の業務分担・ フロー



学内生産：学位論文

過去の授与分の公開

各機関で様々な対応をしている

- どこまで登録するのか？データはあるか？
 - 本文を登録？要旨のみ？
 - 製本済であれば、解体のコストも・・・
 - データがない場合、スキャンしなければ・・・

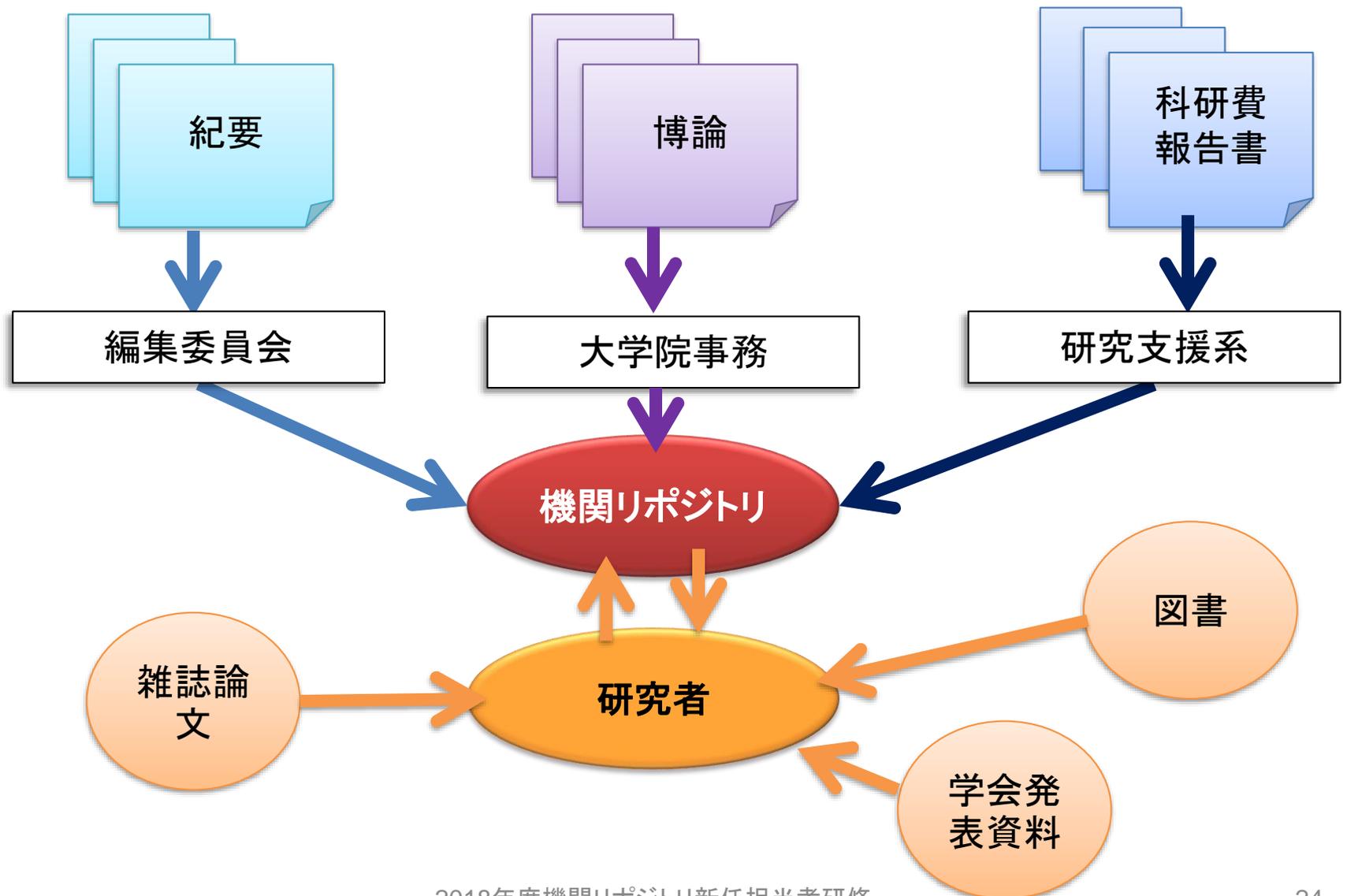
学外の刊行物

- 収集方針・運用方針
 - 公表済文献に限るか
 - 前任地で執筆した文献も対象とするか
 - ゴールドOA分も対象とするか
 - 必ずしも出版社版が公開できるとは限らない
- 学内研究者への広報(後述)
- 共著者の意向、出版社のポリシーに注意
- グリーンOAの他の手段
 - 機関リポジトリは、グリーンOAの一手段
 - 研究者SNSや個人HPなどで公開されている場合もある

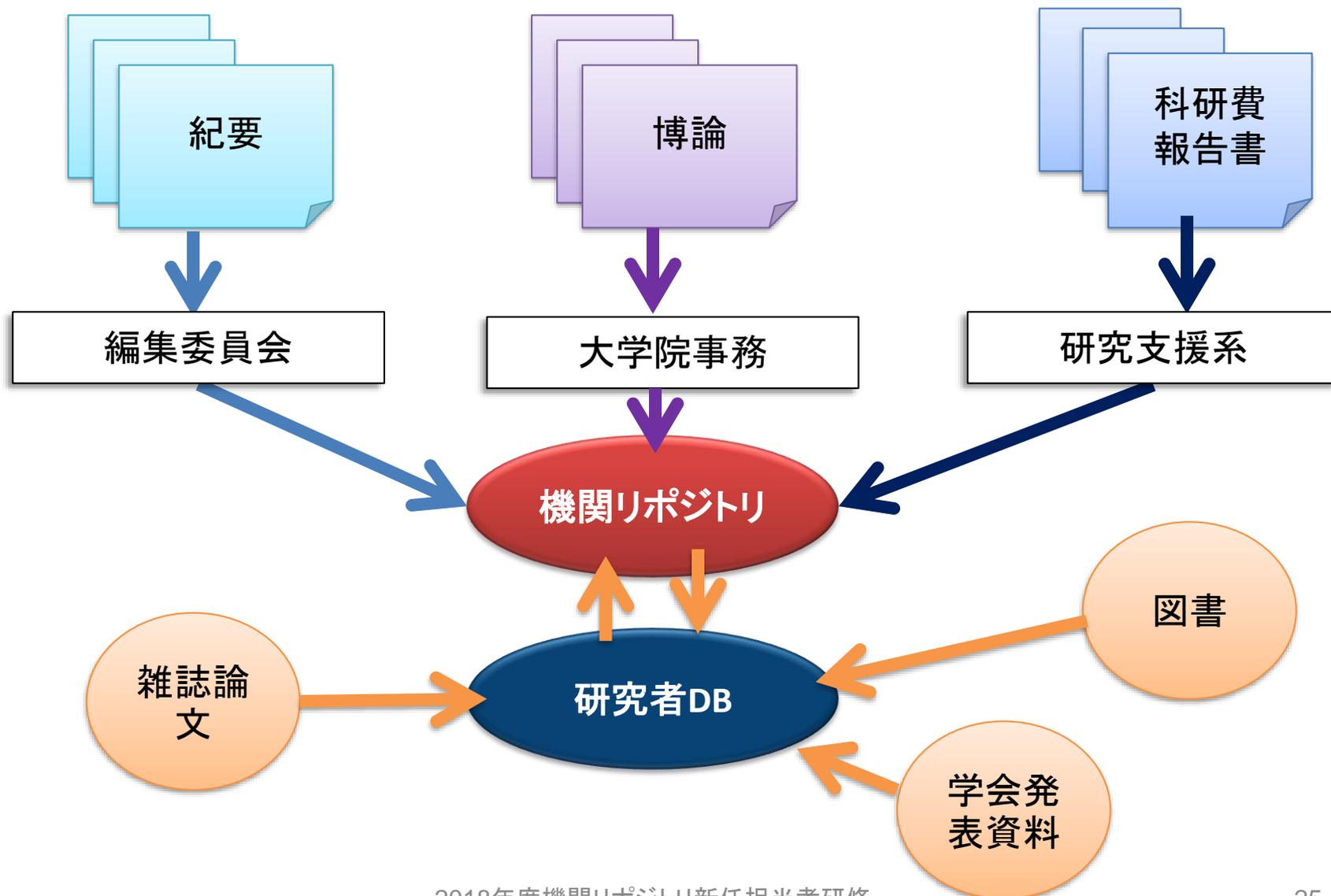
その他のコンテンツ

- 研究者・職員・学生等が独自に作成・管理・公開
 - 学術コミュニティ以外で公表されたもの
 - 一般雑誌・新聞記事、メディア提供資料、商業出版の単行図書等
 - 広く公表されないもの・公表手段が限られているもの
 - 教材、研究データ、映像・音声資料、講演資料等
- 大半の場合、作成者との直接交渉が必須
 - 作成者＝権利者の場合、公開後の利用のされ方も要検討

学内学術情報収集



研究者DB連携も視野に入れて



研究者DBとの連携（一橋大・信州大ほか）

一橋大学研究者情報(HRI)

<https://hri.ad.hit-u.ac.jp/> (参照2018-05-12)

一橋大学機関リポジトリ(HERMES-IR)

<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/> (参照2018-05-12)

相互リンク

コンテンツ収集：研究者への広報

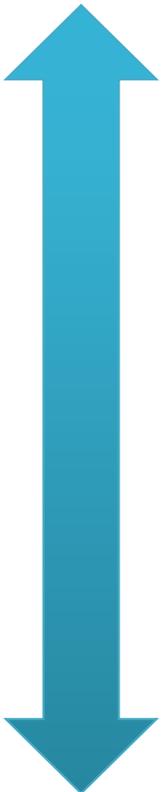
認知度を高める⇔意義を知ってもらう

[事前課題 事例]

—hita-hitaの取組

研究者への広報・アプローチ

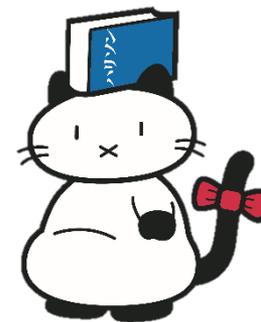
広く認知度を高める

- 
- ① 愛称、マスコット、ちらし、ポスター等
 - ② 説明会、個別コンタクト
 - ③ 統計情報のメール通知

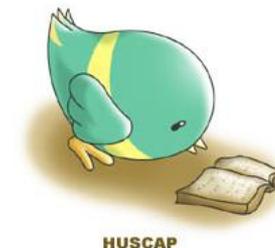
意義を知ってもらう

①: まずはともかく名前を売る

- リポジトリ? コレクション? アーカイブ?
- 英語名称から...
 - HUSCAP、CURATOR、HIR、KURA他多数
- 大学名等から...
 - TeaPot、紅、みやこ鳥、KIT-R等



 神戸松蔭女子学院大学学術機関リポジトリ
KARASHI-DANE
Knowledge and Academic Resource Archive of the Kobe Shoin Women's University Institutional Data Network



①: 理解度向上よりも、認知度向上 (北海道大・小樽商科大)



旧

新

研究論文、産地直送

HUSCAP
北海道大学学術成果コレクション
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp>

レールって何?

A: Barre(パレル)の正式名称は、小樽商科大学学術成果コレクション
本学の先生が執筆した論文や学術記事等がインターネットを介して無料で読めるサイトです。
<http://barrel.i.hokudai.ac.jp>

①: 科研費取得者をターゲット(信州大)

研究成果論文

オープンアクセス

について

科学研究費助成事業では
論文のオープンアクセス化を推奨しています。



**信州大学
機関リポジトリ
SOAR-IR**
<https://soar-ir.repo.nii.ac.jp/>

「オープンアクセスについて」日本学術振興会ウェブサイトより
https://www.jpss.go.jp/j-grantsinfo/03_01_seiso/08_openaccess/

信州大学研究者の方々は、SOAR-IRで論文をオープンアクセスにできます！

平成29年4月
信州大学附属図書館 情報システムグループ SOAR担当
library-soar@shinshu-u.ac.jp



平成26年度～
科研費実績報告書
「オープンアクセス」欄
が追加されました

様式C-7-1 記入例・作成上の注意(電子申請対応用)より
http://www.jpss.go.jp/j-grantsinfo/05_rule/05ta/05_07-1_rei_chiui.pdf

信州大学機関リポジトリ SOAR-IR は、信州大学研究者の方々が執筆した研究論文等をオープンアクセス化(インターネット公開)するシステムです。

公開を希望する方は、執筆論文の電子ファイルを電子メールで附属図書館にお送りください。紙媒体の冊子や別刷りなどは、現物をご送付またはご持参ください。

図書館で著作権の確認を行ったのち、機関リポジトリに登録いたします。

著作権の状況によっては、雑誌の誌面版ではなく探沢時の最終原稿などの掲載をお願いいたします。



「信州大学機関リポジトリ SOAR-IR」

「科学研究費補助金 研究成果報告書」
そのものをSOAR-IRで公開することもできます！
対象の先生方には、図書館からご案内します。

論文送付・お問い合わせ先
信州大学附属図書館 情報システムグループ SOAR担当
library-soar@shinshu-u.ac.jp

①: 頻出する言葉や事象を活用(東京大)



International
ACCESS WEEK

いつでもどこでも
オープンアクセス化で
論文が確認できます

ちょっとあの論文確認しよう

UTokyo Repositoryで研究室や研究科発行の論文誌をオープンアクセス化すれば、いつでも、どこでも論文を読むことができます。野外調査中も、図書館が臨時休館したときだって安心です。

附属図書館オープンアクセスハンドブック
<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/oahandbook>

問合せ先：附属図書館オープンアクセス相談窓口（附属図書館総務課）
E-mail: ac-info@lib.u-tokyo.ac.jp / Tel: 内線 22607 (外線 03-5841-2607)

いつでも
どこでもを
アピール

ハゲタカ
出版の
注意喚起



International
ACCESS WEEK

1本\$4000で
掲載させていただきますよ

学術誌としてしかるべき査読・品質管理をせず、オープンアクセス投稿料収入だけを目当てに論文投稿を勧誘する悪質な“学術”出版団体が増えています。

附属図書館オープンアクセスハンドブック
<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/oahandbook>

問合せ先：附属図書館オープンアクセス相談窓口（附属図書館総務課）
E-mail: ac-info@lib.u-tokyo.ac.jp / Tel: 内線 22607 (外線 03-5841-2607)

https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=72(参照2018-05-12)

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/news/20171023>(参照2018-05-12)

2018年度機関リポジトリ新任担当者研修

②: 説明会をやってみよう

- リポジトリの理念・役割・機能を広く周知させる
- 完全な理解を求めない
 - 一方的な説明で理解してもらうことは不可能。
質疑こそが説明会の中心
 - 説明は極力短く。質疑応答はたっぷり！
 - 30分の時間をもらったら、説明10分、質疑応答20分
- 能書きよりも、**何をしてほしいのか**を明確に
- 後ほど実践します！

②: 説明会をやってみよう

いつ？

- 説明を聞いた人がすぐに手を動かせる時期
- 本物のコンテンツを見せることができる時期
 - 未構築機関であれば、近くの構築済のものを見せる

どのように？

- 自由参加型(参加者数は期待薄)
 - 閉会后、個別ヒアリングしやすい(後述)
- 別の集合機会の一部を充てる
 - 教授会や科研費説明会、新任教職員への事務システムガイダンス etc.

②: 個別コンタクトを企画する

誰から？

- 図書館運営委員や身近な先生から
 - ・ 別の先生へ繋がることも
- トップから: 行事挨拶で話題に出してくれるかも
- 全員だって良い

いつ？

- 構築前: 運用方針、構築の参考
- 構築後: アプローチの参考に

②: 個別コンタクトを試みる

とにかく会いに行く・会ったら話す

- ILLで、カウンターで、学内行事で、.....
- 図書館へのご意見・ご質問をいただく時
- 説明会の質疑応答
 - 説明会后その場で「先ほどのご質問、実際のところは...」
- 研究室に訪問する
 - 「5分10分で結構です」→割と付き合ってもらえる

②: 直接対話するための準備

- 予備知識
 - 相手のこと。分野・研究内容・発表論文等
 - 相手の研究分野の主要雑誌・主な出版社ポリシー
 - 雑誌危機（購入雑誌タイトル、EJ予算）
 - インパクトファクター
 - オープンアクセスジャーナル、APC
 - 海外の情勢（NIH、英米議会、義務化）
 - 日本の状況（日本のIR数、先行大学のやり方）
- こわがらずに、誠実に、熱意を持って

②：心構えとアプローチ

- 説得するわけではなく、話を聞く
 - 研究内容、投稿雑誌、OA、図書館.....
 - 図書館活動全体にとってメリット
- 併せて論文登録の勧誘もするなら.....
 - 「この論文をください！」と明確に伝える
 - 文献情報DB検索結果から、研究業績から
 - サイエンスカフェ、市民講座、講演会
 - ホットな論文(時事ネタ、メディア掲載、内外表彰)
 - たまたま見かけた論文、ILLで受け付けた文献
 - 出版社版IR掲載OKの文献
 - 広報事例集「文献DBから「ください！」」も参照

③: 統計情報のメール通知

- 各文献のダウンロード回数を月次で提供者にメール通知

- 意義の実証

- 「意外なところで、あるいは反対にもっともな所で読まれていたりして、大変興味深く、かつ今後の刺激になるデータです。今後とも楽しみにしております。」

Title: Barrelご提供文献の閲覧状況(20XX年X月)

〇〇先生

日頃より附属図書館の事業にご協力いただき.....

附属図書館では、「小樽商科大学.....(Barrel)」に著作を提供下さったみなさまへ、月1回、閲覧状況をお知らせしています。

以下は、文献ごとの閲覧回数です。より詳しい内容もご提供できますので、ご希望の方は....

※詳細版の内容はドメイン別の閲覧回数です。

.edu(米国教育機関)からn回、.otaru-uc.ac.jp(小樽商大内)からn回、といった内容になります。

来月以降こうした通知が不用であれば.....

【20XX年X月 文献別被閲覧回数】

〇ダウンロード XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

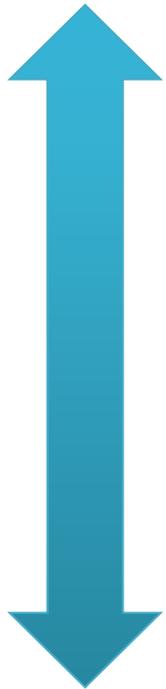
〇ダウンロード XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

:

さいごに

研究者への広報・アプローチ(再掲)

広く認知度を高める



- ① 愛称、マスコット、ちらし、ポスター等
- ② 説明会、個別コンタクト
- ③ 統計情報のメール通知

意義を知ってもらう

全部やる！

- ともかく名前を売らなければはじまらない
- チラシは広範囲だがスパム止まり
- 説明会は対象が狭いが、うまくいけば効率良い広報に
- 個別コンタクトは時間がかかる

→うまく組み合わせよう

- ひとりでできなければみんなで
 - 複数の担当で協力して
 - 複数の機関で同時に

- Open Access Week(10月末)など

– 2017年の日本国内様子:

https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=72(参照2018-05-12)



オープン化の意義(再掲)

(図書館のメリット)

<誰が主体か...>

—学内研究者を主体とする全学的な理解と協力が必要—

- ・機関内合意、指針化等を経て、大学の事業として実施
- ・コンテンツの主役は学内研究者
- ・図書館は、機関リポジトリの構築・運用に中心的な役割

<図書館のメリット>

- ・研究者との対話、研究生活の理解
 - 新たな図書館サービスのヒントを得るなど、
あらゆる図書館活動にプラスに働く
- ・機関リポジトリに関わる、他部署との対話

*hita-
hita*

ペアワーク2

隣同士でこのコマを聞いて、自機関のリポジトリコンテンツ構築につき、現状の次の段階への宣言を行いましょう。

Time 3分

*hita-
hita*

模擬説明会

模擬説明会

- いまから、皆さんは
 - 「先生になったつもりで」聞いてください
 - 「先生になったつもりで」質問してください